

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員 村田 隆

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す」を掲げ、種々実施項目を作成され着実に成果を上げられている。「ステップアッププラン（確かな学力の育成）」、「ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）」、「ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）」、「ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）」、「パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと家庭地域との連携）」、これら五つのプランは何れも教育の核となる重要なものだと思う。

また、それらと連動した「特色ある取組」、「きらめきプロジェクト」、「一貫教育の基本方針」、「きらめきスキル」、「きらめきアクション」等の方策を組まれ、これらを着実に取り組んでいただき、“鉄は熱いうちに打て”の諺のように、この義務教育期間に児童生徒それぞれの骨格ができるよう取り組んでいただければと思う。

守谷市は、平成27年4月1日から「新教育長」を任命し、新制度による教育委員会をスタートさせた。着実に総合教育会議、定例会、臨時会等開催され審議、問題等の改善解決を図っていかれると確信する。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教育の整備・充実

平成26年度から各小中学校に指導者用タブレット端末を教員相当台数（合計369台）配備。また、その端末を有効活用するため、新たに電子黒板を全校の普通教室に配備（合計220台）と指導用デジタル教科書（教科書準拠）を整備し、分かりやすい授業により学習意欲と確かな学力向上を目指した。

何れも他市よりも早く電子黒板等で社会、理科、算数など絵柄、図形等拡大したもので学習でき、また、インターネットからも教育番組が引き出せるようで大変好評であると聞いている。学習効果の向上が期待できるものと思う。

今後は、さらにこれらの機器を有効活用できるよう方策を講じてほしい。

トイレ洋式化で従来の不人気な箇所から快適な箇所へと変わった。平成27年度でほぼ全域に改修ができたようだ。いつも清潔感があるように維持管理してほしい。また、全教室に空調設備が整い年間を通し快適に授業が行われ、学習効果が向上するものと期待する。

松並地区土地区画事業に伴う児童数の増加に対応するため、黒内小学校の校舎増築工事、既存校舎改修工事（トイレ改修含む）も実施された。平成28年度には郷州小学校体育館の老朽化による改修工事が予定されており、安全に工事が進むよう望みたい。

児童生徒が関係する不審者情報が寄せられている。特に、下校時にその事件が多いようだ。学校関係者に限らず地域の方々にも、「不審者と思われる人を見たら警察へ」という情報を知らせることが重要だと思う。また、過去に歩道を下校時歩いていた児童が、後から突然車に飛ばされる事故があった。絶えず注意しなければならない状況である。現在、登校下校時に教育委員会、PTA関係者、防犯連協の方々による青色パト等での見守りが行われおり安心である。

（２）学校教育プラン

① ステップアッププラン（確かな学力の向上）

基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善がみられる。確かな学力の定着については、「茨城県学力診断のためのテスト」結果から市全体で、小学３年生から中学３年生まで全ての学年で県平均を上回り、十分定着していると思われるとのことだが、身についていない児童生徒には個別指導する必要があるとのことである。今後の対応として発達段階に応じた学習スキルの定着、家庭学習の習慣化とされている。家庭での予習復習が習慣化できれば問題解決になると考えられる。個々人にそれをどのように継続させるかが大きな課題と思われる。

思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上では、大井沢小学校では「分かる喜び」、松ヶ丘小学校では「自らの考えを持ち、豊かに表現できる児童の育成」を各テーマに取り組まれ良い成果が得られているようである。

読書活動の積極的推進を図る「みんなにすすめたい一冊の本」事業では、小学校で５０冊以上読んだ児童の割合が８８．５％、中学校で３０冊以上読んだ割合は１２．１％。小学校では年々県平均を上回り、中学校は下回った結果です。読書離れの傾向ですが中学校は読書意欲の向上を図らねばならない。

② ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

近年、家庭で教育すべきことが軽んじられてきたことが多く見られる。例えば「早寝、早起き、朝ごはん、お手伝い」、「あいさつ」、「鉛筆の正しい持ち方」、「お箸の持ち方」等など。これらは全て小さい頃に親たちが教えたものである。その正しいやり方を覚えれば、それが習慣となり一生ものとなる。

やがて毎日繰り返すことで生活習慣化され、良い心も育まれると言われている。現在、残念ながら学校でそれらを取り組むようになり、「守谷しぐさ推進委員会」、「あいさつ運動」に始まり、様々な取組が実施されて良い結果が報告されている。継続して様々な場面での対応が図られるように望む。

「いじめ問題はどこでも起こり得る」という危機感を持ち、未然防止・早期発見・適切な対応、子供の小さいサインも見逃さない取組で認知件数小学校１６件、中学校２７件、計４３件。前年とほぼ同じ件数とのこと。

今後は、学校と教育委員会、関係機関との連携が重要で、いじめ撲滅のための集会やキャンペーンを実施することも重要である。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

最近では、児童生徒が放課後運動場で駆け回っていることが少なくなっていると思う。

体力テストA+Bの達成率は、小学校が52.5%で、県平均より0.4ポイント下回り、中学校では62.88%で県平均より2.7ポイント上回った結果である。今後、体育の授業だけでなく全教育活動の中で運動を取り入れ体力向上に努めてほしい。

健康教育の充実には、学校医・歯科医・保健センター・警察等関係機関が連携して健康に対する自己管理能力を高めてほしい。

食に関する指導の充実には児童生徒が、正しい食事のあり方と望ましい食習慣を身に付けること。また、給食活動等で自らの健康管理ができ豊かな心の育成も図ること。特に食物アレルギーに関する対応は、担任一人ではなく複数の教員で当たるよう周知徹底して事故撲滅を続けてほしい。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

国際理解教育の充実のため、英語力、特に英会話に重心を置くため「ALTと遊ぼう」の活動は成果を上げているようだ。平成27年度児童アンケートで「外国語（英語）活動は楽しいか」の質問に95%の児童が、また、「英語を話せるようになりたいか」にも96%が肯定的回答。同年保護者アンケートでも「ALTの全校配置は良いと思う」97%、「子どもの外国語への興味関心が高まった」83%、「外国語活動を参観したことがある」100%と大変好意的結果であった。やはり、現地の英会話で学べるのが良い結果になっているようだ。今後、さらに充実した活動になっていただきたい。平成27年度「中学3学年時における英語検定3級以上の取得率」市全体44.33%取得で前年を上回っている。

コンピューター、電子黒板等のICT機器や、デジタル教科書やデジタルコンテンツ等を活用によって、児童生徒の興味関心が高まり学習内容にも視覚的に捉えることができた。しかし、「ネットいじめ」が起こり正しい使い方を理解して、危険性については、親子一緒に理解することが必要である。

⑤ 環境教育の推進

総合学習的な学習での環境保全、例年の利根川、鬼怒川河川敷の空き缶、ゴミ拾い等で実践教育が図れる。

職場教育学習では、職場を選定するのに難儀をしているようだ。商工会、各公民館での中学生の職場体験学習を実施しているが、お客さんへの対応等は、おおむね良好であるように聞いている。

⑥ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

「小中学校は地域と共にある」と言われている。PTA、地域ボランティア等の協力で学校運営も生き生きしていくと思う。学習ボランティアで

の授業サポート，登下校時の青色パトロール，見守りなどで協力体制ができています。公民館まつりでの児童生徒の作品展示，演技発表等で地域の人々と交流が図られ開かれた学校づくりとして教育効果が大きいと考えられる。

3 給食センター事業

学校給食は7つの目標を掲げ，給食実施日190日，1日6，479食（2献立制），見学，試食会（松ヶ丘小，高野小合計31回，延べ約670名）等活発に行われている。特に，設備が建築後32年経過し不具合箇所との対応に追われることもあるようだ。食数増加による給食供給力も限界に近づいているようなので，抜本的に今後の設備能力運営の在り方等検討する時期に来ているように感じられる。現状は何とか対応されており，「給食だより」を市ホームページ掲載，「献立会議」11回実施，食物アレルギー児童生徒（70人）には，保護者，学校給食センターが各情報を共有して対応されている。また，安全・安心の給食のため徹底した衛生管理もいろいろ実施されているように伺え，安心である。

4 生涯学習事業

（1）豊かな生活をめざした学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

急速な高齢化社会到来で，各公民館利用者が増加傾向と見られる。各サークルで芸術文化活動が活発に行われている。その中で，より充実するため公民館講座・教室事業が重要と考える。5つの公民館の講座・教室開設状況では延べ182回実施されている。その後，立ち上げたのが3サークル数とあるが少々少なく感じます。公民館運営が指定管理者導入から2期目の初年度である。いろいろ利用者から評判が良いように聞いている。「広報もりや」の生涯学習コーナーは，市民に情報公開できて今後も継続されると良い。

（2）学校，家庭，地域社会の連携による教育の推進

青少年の体験学習の充実では，中学生富士登山を長年実施され大変好評である。本年は山の日が制定され，山への関心が強くなっている。何れも名山と言われる山が近辺にある。今後，選択肢に加えることも一案と考える。

家庭教育の充実では家庭教育に関する学習機会を提供され，家庭教育講演会，家庭教育講座，就学時家庭教育講座が開催された。子供の生活習慣，教育，育児に関する悩みが主題と考える。家庭も学校と同じと考え，先生役は母親或いは父親である。その観点から取り組んでいただければと思う。

（3）学習活動・芸術鑑賞の場の提供と公民館活動の推進

芸術祭は，例年開催され活発に行われ展示者の成果発表の場でもある。しかし，展示スペースが狭く作品展示数が限られている等の声を聞く。照明具合も美術館並みにはできないと思うが一工夫してほしい。夕べのコンサートは地元のサークル団体が発表の場として長年継続して好評と聞いている。近年来場者数が減少傾向とのことで，暑い夏のこともあり，会場等も含め問題

点を検討してほしい。コミュニティづくりの推進では、毎年各公民館まつりが開催されている。数年前から社会福祉活動計画が推進され、名称も地域ふれあいまつりと改称されている。子供から高齢者までが楽しめる「まつり」になるよう企画されているところもある。今後、活発な「まつり」になっていくように期待したい。守谷ハーフマラソンは、年々盛況になり当初の町おこし事業から市民健康事業に変わろうとしている。定員のあり方、沿道応援コースの設定等大会運営検討時期に来ている。

（４）放課後子どもプラン事業

近年、共働き夫婦の増加に伴い、幼児児童の放課後の過ごし方に対応するため、児童クラブ、子どもクラブが作られ大変好評である。学校敷地内に建物が新設され、年々増加傾向である。民間に委託したことでサービスも一段とよくなっている。支援員、ボランティアの増員が必要なところもあり、今後、事故等ないようきめ細かく取り組んでほしい。

５ 図書館事業

平成２８年４月から指定管理者によって運営開始されている。開館日時の増加等で利用者サービスに努められている。県内市町村図書資料費はベスト２位で、市民一人当たり５００円である。今後も、この水準を維持すること。

利用状況は、１日平均貸出者８６３．５人、年間市民一人当たり貸出冊数１３．１冊。これは笠間市に次いで県内２位で、活発な利用が伺えます。市民との協働で市民参加型ボランティア、ブックスタート事業、ボランティア団体による各種講座開催等活発な活動が見られる。建屋が２１年経過しており、本年は図書館建物診断調査実施で安全良好な施設保全が求められている。

<総括>

教育委員会全体の評価について

守谷市は、教育目標「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す」を基に学校教育（基礎教育）分野、社会教育（生涯学習）分野とも活発な活動で成果を徐々に上げていると推察する。タブレット端末３６９台、電子黒板２２０台、小学校に教科書準拠指導用デジタル教科書、トイレ洋式化改修全小中学校に、空調設備も全教室に、黒内小の校舎増築等で設備環境は一段と良くなり、児童生徒のヤル気がいやが上にも求められる。

「確かな学力」は繰り返し学習する習慣づくりから。「豊かな心」は正しい生活習慣から生まれると思う。

A L Tの全校配置で英会話への関心が高まり、地域のボランティア、P T Aの登校下校時の見守りや青色パトロール等で児童の安心安全が確保されています。

給食センターは、食数増、建物老朽化で今後の施設運営の在り方を検討する必要があります。

急速な高齢化のため、公民館利用者が増えています。利用者交流が活発になり、生き生きした高齢者が活動しやすいよう設備面の改善が求められます。

図書館事業では本年から運営が指定管理者となり、開館日時増加等サービス面で好評である。

つくばエクスプレス開業以後、県南地域は人口が増加し急速に発展している。その中で、今後、教育委員会に求められるものは、引き続き、新しい時代に対応して行く柔軟性にあると思う。現在の格差社会が引き起こす様々な問題にも素早く対応して行くことである。解答の無い問題を如何に最善の方法で引き出して行くかの教育も始まっている。幸い守谷市教育目標は、教育の根幹を示しており充実してやり遂げることで立派な人間が生まれると確信している。年々成果が上がっていくことを期待するものである。

